

障がい児のびのびと

「子どもはっち」特別時間枠好評

八戸

八戸市の子育て支援施設「子どもはっち」でこのほど、障がいのある子どもを対象にした特別な時間枠「オレンジデー」が初めて設けられた。3時間半で45組119人が訪れた。同施設を運営するはちのへ未来ネットの平間恵美代表理事は「いかに必要とされているか分かった。この声に応えて、いずれはどの子どもも同じ環境で遊ぶための第一歩にしたい」と話す。12月18日にも実施予定。
(新村菜穂)



オレンジデーで、平間さん（中央奥）の語りを楽しむ親子連れ

いずれ「枠」なくす一步に

来た人を元気づけるようなだいたい色の内装に、温かみのある遊具やおもちゃがそろった、八戸ポータルミュージアム「はっち」内の同施設。オレンジデーの名前は、内装の色にちなみ独自に名付けた。初実施の9日は、父親や母親がくつろいだ様子で、子どもが遊ぶ様子を見守る風景があらわにこちらで見られた。

乳幼児用のおむつ交換台は、体が大きい子どもは使えないため、専用スペースを確保した。他にも車いすやバギーを使う子どものため、業務用の広いエレベーターをえるようにするなど準備を重ねたが、中心になって企画した子どもはっちスタッフの女性(39)は当日の運営について「普段気を付けることと大きく変わらない」と話す。

女性には八戸第二養護学校に通う子どもがおり、障がい児を対象とした時間枠の必要性を感じていた。「出掛けたとき、自分の子どもが迷惑を掛けているんじゃないかと思うと、心が苦しくなってきた。家にこもってしまふ」。実体験から芽生えた問題意識。当日は、フロアを見渡し「お子さんの笑顔が見られて良かった」と笑顔を見せた。

友人たち家族と団体で訪れた同市の佐々木貴子さん(35)は「時間枠があるとみんな気兼ねなく来られる。迎える準備を整えてくれて安心でき、うれしかった」。むつ市の畑中優子さん(44)は「子どもが家の外で、いろんな人と触れ合う機会を増やしたい。バギーでどう

ぞ、と言われると来やすいです」とそれぞれ話した。平間さんは、障がいのある子どもとその保護者が安心して利用できるような場所を、社会の側がつくっていかねばならない」として「遊びに行ける場所がある」と知ってもらいたい。ママと子どもが出掛ける際のハードルを下げたい」と話す。オレンジデー実施時の入場料は、通常と同じ1人100円(障害者手帳、愛護手帳を持つ人と付添人1人は50円)。未就学児は無料。年齢制限はない。